

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS
 2026年(令和8年) 1月9日 金曜日
 月4回金曜日発行
 農地を活かし 担い手を応援する
 農業委員会ネットワーク機構
 発行所 全国農業会議所
 〒102-0084 東京都千代田区二番町9の8
 中央労働基準協会ビル ©全国農業会議所2026
 お問い合わせはホームページ
 (https://www.nca.or.jp/shinbun)まで
 お申し込みは、お近くの農業委員会へどうぞ

水稲直播にキヒゲン
 米澤化学株式会社
 播種時の種子消毒、発芽率向上、鳥害防止に！
 米澤化学株式会社
 京都市南区藤原町14番地
 TEL.075-681-9536 (代)

1st
 お天気クイズ
 桜は、春に芽吹く葉や花びらが、すでに枝先に作られています。この硬い芽を何というでしょうか。
 答えは3面欄外右上へ

今週の記事から
 売れ残りに新たな価値 4~5
 認定農業者応援宣言！
 全国農業新聞電子版・スタディあぐり
 閲覧用パスワード
 (有効期限: 1月1日~2月5日)
 r 80101

鼠どろぼう
 忌避剤
 散布剤
 株式会社 井口
 TEL.045-391-5524
 E-mail: info@iguchico.com
 URL: www.iguchico.com

農福連携で胡蝶蘭を生産・販売

障がい者の経済的自立を支援

帝人ソレイユ 千葉・我孫子農場



丹精込めて育てられる胡蝶蘭

大手繊維メーカーの帝人(内川哲茂代表取締役社長)が10%を出資する帝人ソレイユ(古川寛代表取締役社長)は、農福連携で胡蝶蘭などの生産・販売を行う。特例子会社として障がい者雇用を専門に担っている。知的・精神障がい者の経済的自立を支援するため社員協力で販売モデルを確立した。雇用拡大とブランド価値の向上につなげる一方、収益の確保に力を尽くす。

品質評価され240社から注文

2017年、農業事業「ユ我孫子農場」をオーブ部長の黒木忠さん(55)が立ち上げた。帝人ソレイユは、障がいのある家族がいて、農業に携わりたいという有志社員3人が、農業を軸にした特例子会社設立を提案。3人は週末農業学校に通ったり、福祉事業所や特例子会社の見学に行ったりするなど、企画書をまとめた。

黒木さんは「新会社(子会社、新事業(農業))が重なり難易度は上がった」と振り返る。3人の熱い思いが会社を動かす。帝人ソレイユが19年に設立。千葉県我孫子市に農場「ソレイユファーム」(帝人ソレイユ)を開設した。

胡蝶蘭を軸にすること、ヒートポンプ式の空調、環境制御機器を装備したハウスを20年に竣工し、栽培をスタートした。台湾から輸入した。胡蝶蘭は作業が多岐にわたる。葉の矯正、水やり、鉢上げ、茎を支柱に沿わせて曲げる反曲げ、誘引、花の向きをそろえて、バランスを整える仕立て、傷の確認、出荷――



1人作業で1日7時間かかる水やり(写真の一部は帝人ソレイユ提供)



黒木農業事業部長(後ろ)と次男の貴智さん

回収分別、再利用サービスも
 25年から、同社は「枯れた胡蝶蘭を回収・分別、再利用するサービス」を開始した。贈答用の胡蝶蘭は花の寿命を終えた後、その処分や費用が課題。顧客の悩み解決と資源循環、障がいのある社員の雇用創出につながる。ポレソレファームに運ば

れる。草木は専用焼却炉で焼却、残った灰は草木灰として土壌改良材や肥料に有効利用される。鉢は消毒洗浄しリサイクル、金属製の支柱は分別、リサイクルに回収される。黒木さんは「資源循環を業務に位置づけることで雇用が創出する」と話す。



技術リーダーの黒木さん



元気な芽を選ぶ北條さん

年間2千鉢を生産、売上が1億円を越えている。23年には、東京都中央卸売市場大田市場花き部で平均単価の2割増で予約対取引された。黒木さんは「黒字化を達成してこそ、社員は誇りをもち、自立的にできる特徴があった。社員が成長する体制を築いたことで支援員は配置していない。3本立てを5本立てで

読者の皆さまへ
 本紙購読料の取り扱いについて
 日頃より全国農業新聞をご愛読いただき、ありがとうございます。さて、本紙は今年4月から、本紙購読料を月額700円から900円、電子版購読料を月額500円から700円に改定いたします。

購読料を今年4月から改定します
 ・農村をはじめとした世間を取り巻く環境は変化し、物価や印刷・発送費などが上昇し続けております。そのような中、今後とも持続的かつ安定的な新聞発行を継続していくため、購読料を改定させていただきます。今後、読者の皆さまが、より一層感得できる、身近で頼まれる、読みたい新聞をめざし、随時、紙面の質的向上を図ります。また、電子版などのデジタルサービスも拡充してまいります。

「細かい目にも着目」
 それ以上に、個人的に注目しているのがヒモノガ類だ。ひものように長い筒果で、木の幹にへばりついていて、葉ではなく、樹皮に生えるきのこや地衣類を食べる。以前はたまに見られる程度だったが、最近はやたらと目につき、気になってきた。ヒモノガ類の盛衰は、温暖化や乾燥化に関係するとの見方もある。暖かくなれば越冬中の生存率が高まるが、適度な水分が保てないと不足に陥る。だから環境の異常を知るバロメーターになるような気がする。

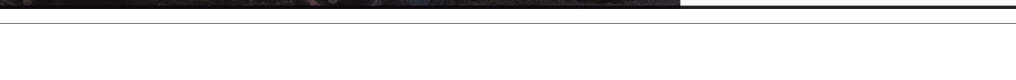
農業に多様な業務
 社員それぞれに得意分野 適材適所の持ち場で活躍
 農業に参入したきっかけは、業務量を確保しやすかったことだった。法定雇用の引き上げによる障がいのある社員の雇用が増えるなかで多様な業務が必要だった。我孫子市を選んだ理由は同市やその周辺エリアは人口が150万人と多く、障がい者雇用の需要があった。全国有数の障がい者雇用企業(23)は2年間、後進の育成に力を貸す。黒木忠さん(47)は、帝人ソレイユの技術リーダーとして専任で働き、同社に就任して専門性のある仕事を担うことに喜びを感じている。黒木さんは「花を鏡に映しながら、真つす、平直に並ぶように調整する」と話す。記載ミスに的確に判断する下野さん

代表選手はいるか?
 その時たまたま頭に浮かんだのがヒモノガだ。代表種・オオミノガの筒果(み)は、中国から侵入した寄生バエによって壊滅的な打撃を受けた。しかしその後現れたその寄生バエに寄生する日本在来の寄生バチのおかげで、回復しつつある。まずは、その復調を確かめたい。

「細かい目にも着目」
 それ以上に、個人的に注目しているのがヒモノガ類だ。ひものように長い筒果で、木の幹にへばりついていて、葉ではなく、樹皮に生えるきのこや地衣類を食べる。以前はたまに見られる程度だったが、最近はやたらと目につき、気になってきた。ヒモノガ類の盛衰は、温暖化や乾燥化に関係するとの見方もある。暖かくなれば越冬中の生存率が高まるが、適度な水分が保てないと不足に陥る。だから環境の異常を知るバロメーターになるような気がする。

たにし閑話 ミノムシで自然の健康診断を
 予知生物研究者 谷本 雄治
 年に一度の健康診断を受けてきた。体重・身長や血圧をはかり、肺のレントゲンを撮り、採血、採尿などをしてもらった。帰りで、ふと思った。森や自然の健康診断も必要なのではないか。専門家は溪流の水を「森の尿」に見立てて水質をみる。土の中の微生物の種類や状態を調べて作物の病気を防ぎ、収穫物の栄養から土壌の健全性を判断する。だったら、近所をぶらぶら自然散歩人にもできることはないか。

For Earth, For Life
 Kubota
GENEST PLUS
 M100GEP(100PS) M110GEP(110PS) M115GEP(115PS)
 M125GEP(125PS) M135GEP(135PS)
 M110GEP-PC(110PS) M125GEP-PC(125PS) M135GEP-PC(135PS)
 株式会社 井口
 TEL.045-391-5524
 E-mail: info@iguchico.com
 URL: www.iguchico.com



大規模農業の比類なきパートナー。